
腰が痛い

白虎

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

腰が痛い

【Nコード】

N3101A

【作者名】

白虎

【あらすじ】

腰痛の、痛さしつこさ、泣きたいな

どうしたんだろう？

腰が痛い。

朝起きると腰が目茶苦茶痛い。昨日の夜寝る時は普通だったのに、一体何が起きたんでしょう僕の腰？

しかも酷くなったり落ち着いたり波のように不安定な痛みがビシビシ襲って来る。

「いたっ…いたっ…いたたたたたた…いででででででででっ！」

右足を踏み出すと痛くなる。足を地につけて一呼吸置くと落ち着く。でも左足を踏み出すと再び激痛。一呼吸置くとやっぱり落ち着く。

「イタチごっこかよ！？寄生虫ですか！？何かが入り込みました！？腰痛のラジオ体操かつーの！……朝だけに」

その瞬間今までで一番のビックウェーブが押し寄せる。

「いででででででででっ！！ごめんゆるして！つまんなかった！確かにつまんなかった！しかも誰もいないのにちよつとテレた！」

腰の痛み在必死で謝るとまた痛みが納まった。ツツコミも兼ねてるなんて気持ち悪いなあ。

とにかく小学校に行かなくては、無遅刻無欠席の皆勤賞がくだけち
つてしまう。

つーか小学生が腰痛ってヤバイなあ。

「夜の内に準備しといて良かった。まだ2時間あるけど今の内に出
ないと間に合わないよなあ」

少々うなだれ気味にランドセルに手を掛けると、また来た！奴だ！
腰痛だ！

「ぐああああっ！ちよちよちよちよっ！待て待て待て待て！」

土下座みたいなポーズでその場に倒れ込むと、丁度オカンが部屋の
ドアを開けた。

「さつきから変な声出してどうし……へ？」

オカンはそれまで反抗期丸出しだった息子の従順な姿に死ぬ程戸惑
った。変な病気かとも思った。まあ病気みたいなもんなんだけどね。

しかしオカンはすぐに冷静になった。

「何こんな朝から土下座で出迎えてるのよ？小遣いならアップしな
いわよ？」

このオカンは本気で俺の反抗期が終わったとでも思ってるのか、真
っ最中だつっーの！その言葉でピークの時期に戻ったつっーの！

心の中では怒り丸出しなのに腰の痛みが引かず、やっと出た言葉が、

「……………こし……………」

嗚呼、今初恋の子に嫌われた時の心の痛みを思い出した。

「こし？何言ってるのアンタは？」

その言葉貴様にそっくりそのまま返してくれるっ！！

その時ようやく痛みが引き始めた。

「ああーくそう！腰が痛いのか・し・が！」

「ああ、腰痛？小学生が腰痛なんて気持ち悪いわねえ」

「さっき自分で思ったわ！つか実の息子に気持ち悪いって何！？」

「アンタ拾った子だから実の息子じゃないわよ」

「どんだけかいカミングアウトだ！？小学生だよ、僕小学生だよ！もうトラウマ決定だよ、反抗期にこんな事言われたらこれからの人生親と仲良くなれるわけないし光輝く確かな道筋も無いわ」

でも僕は強い子だからそんな事気にせず学校に行く準備をし、玄関へ急いだ。

「ご飯は？」

「いるかああアア！」

家の外に出ると雪が降っていた。いつもならはしゃぎ回っている所だが、痛みのせいでそんな余裕なんかある訳が無い。

「くうう、泣きてえ」

でも僕は泣かなかった。何故なら僕は強い子だから。

するとその時前から同級生の華恵が走って来た。

「あ、ねえ、家のペス見なかった？起きたら首輪が外れててどこかに行っちゃったみたいで」

「ペス？見てないよ」

「そっかあ、どこ行っちゃったんだろう……」

すごく悲しそうな顔をしていた。強い子の僕としては元気づけてあげなければ。しかしその時再び痛みが走った。

「いたたたたたたたっ！！」

「え！？いた！？どこ！？」

くそう、こいつもバカなのか！それとも僕の頭が良すぎるだけなのか！

「いや……違う…腰………いでででででででででっ！！」

「違う！？嘘ついたの！？最低！」

華恵はバチンと音を立て、僕の頬に紅葉マークをつけて走って行ってしまった。腰の痛みが増したのは言うまでも無い。

その後も自転車に突っ込まれたり、僕より小さい子にぶつかられたり、ペスに腰噛まれたり、あ、ペスいたよー。そんなこんなで学校にたどり着いた。

朝の会が始まり、先生が話し始める。

「今日は体育があります。体操着忘れた人いますか？」

あ、しまった忘れた。

「忘れた人は、今から取りに帰ってください」

後で聞いたらその時の僕は何かがタガタしてて右拳をかたく握り、薄ら笑いを浮かべ、鬼の形相で先生を睨みつけ、

「上等だ」

と、呟いていたそうです。

（後書き）

往復で4時間かかりましたとさ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3101a/>

腰が痛い

2010年10月26日09時24分発行